

## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

### 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	市民への健康づくり情報等の提供事業							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	健康推進担当係長 川原 静恵
1-3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			③基本施策	成人・老人保健	コード	2-1-1
					④単位施策(中)	健康づくり事業を支援する環境づくり	コード	2-1-1-3
	②項	健康			⑤単位施策(小)	市民への健康づくり情報等の提供	コード	2-1-1-3-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市民が健康づくりに関心もてる			
1-5 事務事業の内容	健康に関する情報を市民に広く周知するため、広報・回覧チラシ・ホームページに掲載する。							

### 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識		
	平成18年度	健康課実施事業については、広報・回覧チラシで市民に周知した。また、ホームページにも掲載した。保健センター窓口のパンフレットも、わかりやすく置くようにした。	健康に関する情報は、マスメディアから多く流れている。その中で、個人個人が判断し、自分の健康づくりに役立っている。しかし、その一方で情報が氾濫し、判断に迷うこともある。	健康づくりのための正しい情報を市民は求めている。さらに市民が手軽に情報を得ることが出来るようさらに整備が必要。	平成19年度	18年度の取組みに加え、20年度から健診体制の変更点を広報及び基本健診の結果票にも掲載した。	20年度からの医療制度改革に伴い、健診体制が変わること。また、メタボリックシンドロームなど聞きなれない新しい情報がさまざまなところで流れている。
平成20年度	健診事業の制度改正により実施方法・内容が大幅に変わったため、分かりやすい広報内容になるように努めた。	健診受診者は昨年同様との思い込みが多く、行違いが多発した。制度改正時の、啓発活動の木目細やかさの必要性を痛感した。	市民は健康づくりのための正しい情報を求めている。と同時に継続事業の実施内容は、昨年同様という思い込みが多い。変更内容が分かりやすい情報の提供が必要。	平成21年度	新型インフルエンザ、女性特有のがん検診など変化によりはやく情報を伝えるように努めた。	健康に関する情報は氾濫し、判断に迷うことも少なくない。市民は健康への関心は高く、正しい情報を求めている。また、はやい情報提供を求めている。	
平成22年度	昨年に引き続き広報に朝食を中心としたレシピを掲載。平成22年度から「とよあけキッズしあわせプラン」に基づいて、ホームページ「食育ひろば」を開設し、食育活動を掲載した。						
平成23年度	平成22年度活動を継続。市役所発信のメールも活用し、各事業の紹介もおこなった。						
平成24年度	平成23年度活動を継続。広報やホームページ等を市民にとってより見やすいレイアウトに改良し、各事業の紹介を行った。						
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	朝食を必ず食べる人の割合(%)			89.0(%)	90.0(%)	食習慣の原点である朝食摂取率 【資料】ウオーキングイベントアンケート調査 マップ利用者÷アンケート回答者数 ウオーキングイベントアンケート調査				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(単位)	23(回)	25(回)	25(回)	15(回)	15(回)	31(回)	17(回)			
直接事業費b(千円)	1,434	931	665	716	943	570	438				
人件費c(千円)	148	157	269	170	161	114	162				
合計コストd(b+c)(千円)	1,582	1,088	934	886	1,104	684	600				
単位コストd/a(千円)	情報提供回 当たり 69	情報提供回 当たり 44	情報提供回 当たり 37	情報提供回 当たり 59	情報提供回 当たり 74	情報提供回 当たり 22	情報提供回 当たり 35				

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 ▶ 広報12回 広報折込チラシ2回(がんの折り込み) 食育ホームページ 3回 【直接事業費】(広報印刷代含まず)折込チラシ 179,000円+259,000円= 合計 438,000円 【人件費】広報原稿作成 24時間 折込チラシ原稿作成 24時間 ホームページ原稿作成6時間 54×3,000円=162,000円 合計162,000円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績 (%)	86.0	—	89.2	—	—	—	—			
	後期目標値に対する達成度 (%)	95.6	—	99.1	—	—	—	—			

### 3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度担当課評価	B	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境 (予算的・人的) に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準 ①必要性 (必要な事務事業であるか)
  - ②公共性 (公が実施する意味があるか)
  - ③妥当性 (ニーズに対して投入が適正か)
  - ④効率性 (結果に至る活動に無駄はないか)
  - ⑤有効性 (活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - ⑥市民満足度 (事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	健康づくりに関する情報をPR媒体を通して、またあらゆる機会をとらえて普及していく工夫が求められている。	今回のアンケート調査対象群は年齢的に偏りがあり、次回には全年齢を対象とした調査が必要。	ウオーキング推進についてウオーキングイベントは市民参加者数 250人、また市民の健康づくり団体のPRの場ともなった。食生活改善推進グループへは食事バランスガイドの情報提供を実施、活動の場に生かされている。
平成19年度	〃	事業のみの情報ではなく、食事・運動などの健康に関する情報も織り込んで市民に啓発していく必要がある。	健康課の事業を広報・回覧チラシで情報をつたえているが、全市民にはいきわたらないことがある。ホームページの掲載がタイミングよくできないものもあった。	
平成20年度	事業変更時の目目細やかな情報提供の工夫の必要性を痛感した。	変更後2年目であるが、1から変更内容をお伝えするつもりで情報提供に取り組む。	広報・回覧で重複して情報提供し、理解していただけたと考えていたが不十分であった。活動団体からの提供も考慮の必要あり。	
平成21年度	より多くの人に見てもらえる情報の提供の仕方を考えていく必要がある。	幅広い年代にPRするため、ホームページの活用を力を入れる。	健診については、広報折込チラシ等で情報提供し、前年度より問い合わせの件数は減少した。食育について広報で毎月情報提供をすることができた。	
平成22年度	幅広い年代にPRするため、ホームページの活用さらに力を入れていく。			
平成23年度	チラシ・広報・ホームページ・メール等を活用し、より多くの人に各事業の周知をはかる。			
平成24年度	より多くの人に各事業の周知をはかり、各事業の参加者数を増加を目指す。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

### 4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	B	偏ったアンケート調査ではなく、全年齢層を対象にしたアンケートに改善する必要がある。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度	A	継続して事業を進めること。
	平成24年度	A	継続して事業を進めること。
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		